

“ま・ね・とち”は まちの駅応援団

企画部情報政策課 吉田 恵子

「まちの元気がなくなるといことは、住んでいる人やお店が減るだけでなく、まちの歴史や文化も消えていくこと。」宇都宮の中心部に生まれ育った私が、そんなまちの様子を寂しく思い、少しでもまちを元気にする方法はないものかと考え始めて2年。めぐりあったのが「まちの駅」です。

「栃木にもっとまちの駅をつくりたい、まちの駅同士をつなげるお手伝いがしたい」。そんな思いから、今年5月、「まちの駅ネットワークとちぎ(ま・ね・とち)」を立ち上げ、まちの駅応援団を始めました。



§まちの駅って、何？

ところで、「まちの駅」って何でしょうね。みなさんご存知の「道の駅」が車で走っている人のための施設なら、「まちの駅」はまちを歩いている人のためのほっと一息つける場所。「駅」といっても、普通のお店などがちょっとした休憩場所を設けて、まちの地図などをそこに並べておき、店内のトイレを貸してあげるだけ。あとはお店の人が「おもてなしの心」で訪れた人を迎えてあげれば、そこはもう「まちの駅」。

このように誰でもつくれる、誰でも使える「まちの駅」では自然にいろいろな人が集まり、交流し、新しいまちづくりがはじまります。やがてそこからまちが元気になっていくのです。さらに「まちの駅」は今全国に約350ヶ所。駅同士が仲良くすることによって、日本中にとりだちの輪を広げることのできるのが「まちの駅」のすごいところですよ。

§“ま・ね・とち”の活動いろいろ

誕生して間もない、スタッフ1名の“ま・ね・とち”のモットーは「できることを少しずつ」。

「まちの駅」の生みの親であるNPO法人地域交流センターや、県内のボランティア団体の方の協力をいただきながら、休日を利用し、「まちの駅」になってくれそうな所を回って勧誘を行ったり、まちの駅同士の情報交換を進めるために、広報誌を作ったり、ホームページを作ったりしています。

目下の最大プロジェクトは、8月28日(土)に開催される大平町のまちの駅と、福岡県のまちの駅との交流事業「どん・どん・つながるまちの駅」。大平町のまちの駅で生まれた和太鼓グループが、福岡県立花町のまちの駅のある地区で、地元の和太鼓グループや音楽バンドと競演会を行うことになり、“ま・ね・とち”も主催団体の1つとして活動中です。自分にできること、自分が持っているものを少しずつ持ち寄って作り上げる、住民主導のこのイベントは、「まちの駅」ということだけを共通項に企画されたもの。立花町のみなさんもとても楽しみに準備を進めてくれていて、改めて「まちの駅」の持つ力、「まちの駅」に集う人々の心の温かさを実感しています。

§「まち」へ出てわかったこと

活動を始めて数ヶ月。この間の最大の収穫は、たくさんの人との出会いです。いろいろな人が、いろいろな場所で、「住みやすいまちをつくるため」、「人の心を豊かにするため」に、肩肘張らずに、いろいろな活動をしている。それは、職場の中で仕事をしているだけでは、わからなかったことでした。

「まちの人の底力」に支えられつつ、まちの人に元気をもらいながら、“ま・ね・とち”も少しずつ前に進んでいきたいと思っています。

写真 上：葛生町のまちの駅

下：福岡市内のコミュニティFM局で放送中の「まちの駅ストーリー」にゲスト出演。パーソナリティーのお二人と筆者(中央)で本番前の打合せ中。

